

最後に、「校長の勝手にランキング」（3位が3つあります。）

みんなが「いきいき・わくわく」していた瞬間

第1位 「1年生を迎える会・春の遠足」

<選考理由>

なんといっても、全校児童19名がそろったことに感謝しかありません。1年生のために素敵な会にしようと企画し、実行する上級生の温かい気持ちがよく伝わる会でした。6年生は最高学年として下級生をリードする大役で、一生懸命にその責任を果たす姿が見られました。



第2位 「山田小とのプール交流」

<選考理由>

1～4年生は山田小学校で、5・6年生は後閑小学校で交流しました。山田小学校の児童と久しぶりに顔を合わせる子どもたち。山田小学校の児童は約60名、決して大きい学校ではありませんが、後閑小にとっては大人数です。プール学習やふれあい活動の中でたくさんの刺激をもらいました。

人数が増えると、学習や活動の幅が広がります。例えば、プールの中をみんなで同じ方向にぐるぐる歩いて水流を作る「流れるプール」は、この日にしか味わえない貴重な経験でした。また、山田小学校の児童の泳ぎを見て、参考になったと話す児童もいました。



5・6年生 「流れるプール」



1・2年生
「山田小の小プール」



6年生「フルーツバスケット」

第3位 「はなをさかせよう」「ぐんぐんそだてわたしの野さい」(1・2年生、生活科)

<選考理由>

1年生はアサガオの種をまき、1・2年生は一緒に野菜の苗を植えます。毎日の水やりの中でどんどん変化していく植物の様子に、「芽が出てる!」「7個、全部出た!」「花が咲いた!」「実がついてる!」と子どもたちには「わくわく」の連続です。

昨日と比べたり、友達と比べたり、自分のこれまでの経験とも比較しながら、「なんでだろう?」と疑問をもつことが学びの第一歩です。そのあとの「知りたい」「やりたい」「調べたい」という意欲から、自分なりの答えを導くまでの過程を楽しいと感じることができれば、自ら主体的に学ぶ子へと成長していきます。1年生の生活科は、それを体験する大切な学習なのです。



第3位 「もっと知り隊!マイタウン後閑」(3・4年生、総合的な学習の時間)

<選考理由>

「後閑地区の魅力をもっと多くの人に伝えたい!そのためには、自分たちの足で歩いて、目で見て感じてくる必要があります。どうか、見学に行かせてください。」という熱いメッセージで、校長先生、教頭先生、担任の先生の心を動かし、見学許可をもらった5人。最初の見学先は坊主島でした。

学区外ということもあり、バスと徒歩で励まし合いながら目的地を目指します。

エンジェルロードを歩き、やっとの思いで坊主島へ上陸すると、準備していた小瓶を海に流しました。中には「(素晴らしい場所、後閑に)き・て・く・だ・さい」のメッセージを入れました。この小瓶はどこに流れ着いて、誰が拾ってくれるのかを考えると、わくわくします。

多くの人に後閑の魅力を伝えたいというしっかりとした目標を掲げながら、2学期以降も活動は続いています。



熱い思いを伝えるプレゼン発表



暑期中、がんばって歩いた経験も今後の力になることは間違いありません

第3位 「調べよう!伝えよう!日本の伝統文化」(5・6年生、総合的な学習の時間)

<選考理由>

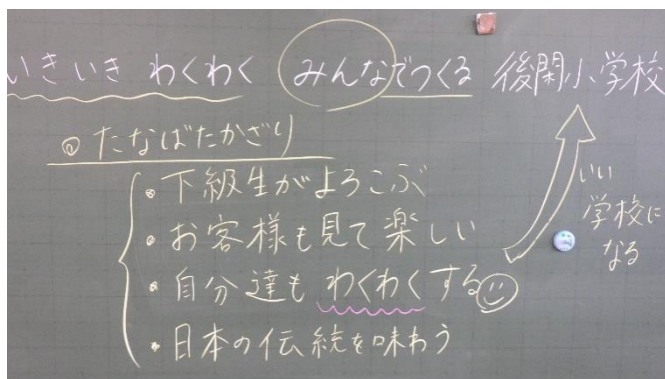
身近な生活の中に根付いている日本の伝統文化を調べたり、体験したりすることで、何百年と受け継がれてきたのは、技術だけでなく、自然や生き物を大切にする心や人を思いやる心でもあることを感じてほしいこの学習。何気ない日常の中に、日本に伝わる知恵や価値観に気づけるようになるかもしれません。

1学期に体験したのは「華道」。生け花の先生をお招きして、教えていただきました。伝統文化の技だけでなく、指導して下さる方の「思いや願い」に触れることも、この学習の重要なポイントです。教えてくださったK先生は、花を見る目、扱う手がなんとも優しい方でした。子どもたちに、「自分の思ったように生けることが大切です」と話され、どの子の作品も素晴らしいと言って褒めてくださいました。一つ一つの花を大切に生けることで、心が穏やかになっていく。そんなひと時を体感できた貴重な時間となりました。



そんな日本の伝統文化を学んでいる5・6年生が、「七夕飾り」を作ってくれました。黒板には、日本の伝統を味わうとありました。教室で学んだことを実生活の中で生かしたり、役立てたりすることで、学びの意味を実感できます。5・6年生のおかげで、後閑小学校のみんなが笑顔になる「七夕飾り」になりました。そして、私自身が日本の伝統文化のよさを再認識することができました。ありがとう。

2学期以降も、5・6年生の伝統文化の学習は続きます。



5・6年生教室の黒板



校長室前にて